

西山 キミエの経歴：

- 1917 大正6年3月17日 出生（西山庄三とタツ（旧姓 中村）の長女）
- 1921 大正10年9月22日 母 タツ逝去
- 1932 昭和7年3月31日 諫早高等女学校卒業
昭和8年2月12日 祖母 セン逝去
- 1939 昭和14年5月15日 婿養子 清水留太郎と結婚（専業主婦として子育てと家事）
- 1940 昭和15年1月4日 長男 紀男を出産（福江市）
- 1941 昭和16年2月27日 長女 和子を出産（福江市）
昭和16年2月～昭和23年7月の間、長男の紀男を両親（庄三とクラ）に預けた。紀男は諫早市の祖父母の下で育った。
- 昭和18年9月13日 次男 紘二を出産（大村市）
- 1945 昭和20年8月15日 終戦（日本の敗戦）を迎える。
諫早市（庄三の別棟）に居住。間もなく夫 留太郎が復員して来た。
- 昭和21年6月7日 次女 恭子を出産（諫早市）
- 昭和23年8月 留太郎一家は勤務先 大村市に転居した。
- 昭和26年（長男 紀男が小学6年のとき）、毛糸編み物教室に入門、編み機を購入して内職を始め、家計を補助した。
編み物は性に合っていたのだろう、紀男が40歳になる頃まで続いた。
- 昭和28年8月 留太郎一家は勤務先 長崎市に転居した。
- 1960 昭和35年1月 父 庄三が逝去、留太郎とクラ（庄三の後妻）が遺産を分割相続。
昭和38年4月 長男 紀男は就職、北九州市に居住。
- 昭和40年12月 留太郎は諫早の地所（田圃）を売り、泉町に家を新築した。
- 1967 昭和42年6月 長男 紀男は横山美年子と結婚。
昭和49年8月 母 クラが逝去、留太郎は遺産（諫早市城見町45、46）を相続。
昭和52年5月 留太郎は諫早の地所（田圃）を売り、墓の墓碑を1基にまとめる。
- 1979 昭和54年3月21日 夫 留太郎が逝去、
先祖から受継いだ諫早市の土地建物（和子と紘二が相続したものを除く）、長崎市泉町の土地建物および留太郎の預金全額をキミエは相続した。
その後、家を増築し、お花の先生を自宅に招いて近所の人と生け花を楽しむ。
- 1995 平成7年5月 長崎市泉町の家屋を取り壊して、二世帯住宅に建て替え、次女 辻恭子家族と同居を始めた。
同居の決断から住宅の立替え、同居に至る経緯および資産の異動を長男の紀男には秘密裏に実行した。辻恭子からも何の報告も無かった。
その年の秋の終り、キミエから紀男に電話があり、「新築した家は辻俊雄との共同名義にした。続いて、土地はどうでしょうか？」との相談に、
「家は仕様がな、しかし土地は留太郎から相続した西山の資産だからキミエの名義のままにしておくこと、決して変更してはいけない。」と返答、キミエは「わかった。」と答えたので通話を終った。

最近になって、キミエは私に虚偽の説明をしていたことが判明した。

2019年3月、弟 紘二が逝去した際、岩永弁護士からの連絡により、家屋は共同名義では無く、辻俊雄の名義になっていた、と。

- 2005** 平成17年10月 辻恭子は、キミエ（88歳）を本原の介護施設へ入居させた。（施設名不詳）。
- 2007** 平成19年3月 辻恭子は、キミエ（90歳）を「かいごの花みずき」に転居させた。転居の後、辻恭子の案内で紀男と美年子は「かいごの花みずき」を訪れた。紀男と美年子の前で母は「恭子からこんな所に押し込まれた。」と不満を漏らした。その時、キミエの不満の理由を聞いてあげる余裕が無かったことを我々は後悔している。
- その後、恭子は、「本原の施設は介護の質が悪い、評判の良いここへ移した。費用が高くなるので、駐車場の賃料の一部を使いたい。」と紀男に了解を求めた。紀男は即座に、「駐車場は和子、紘二のものだ。賃料には一切、手を付けてはいけない。」と釘を刺した。
- 2019** 平成31年3月22日 次男 紘二が逝去。キミエは遺産（諫早市駐車場 紘二の持ち分）を相続。
- 令和元年6月28日付、後見等事務報告書の添付資料を見ると、親和銀行・諫早支店の口座残高、平成31.04.24 ¥2,546.-。キミエと恭子により全額横領されていた。

これまで、キミエには、私への事前の確認もなく延命治療がおこなわれてきた。

- 2012** 95歳の時、ペースメーカーを装着した。
- 2020** 103歳の時、ペースメーカーの電池を交換した。
- 2021** 104歳の時、CVC延命治療が施された。
- 2023年3月28日、母 キミエは106歳になったところです。
- それ以降、1日中眠っていることが多くなった、と伺っています。
- 何時迄生きていられるのか？ 介護施設、かいごの花みずき、の看護師および施設長からは、「分からない。」との返事を得ています。
- 2023年3月31日 かいごの花みずきの看護師からキミエの容態の電話があった。
- キミエの呼吸状態が変わった。 口で呼吸する。
- 酸素の血中濃度の上りが悪く 80%
- 酸素1Literのところ、3Literに増やしている。
- 今は、見取りの時期かな？ 心づもりをしておいてください。
- 早めに連絡しました。

- 2021** なお、2021年6月8日、敬子さんが長延寺に法名をお願いした。
- 紀男に対する裏切り、和子、紘二の資産を全額横領、などの理由により院号は付けないう「釈 ○○ 信女」をお願いした。

西山 キミエ 百四歳
しやくしんえ
釋眞惠信女
眞とは、まこと。本当の。正しい。浄土眞宗。眞仏土。
恵とは、めぐむ。みくみ。情けをかける。物を与える。

法名
釋眞惠信女
今和三年 月 日 往生
俗名 西山キミエ 行年 百四歳

法名
釋眞惠信女
今和三年 月 日 往生
俗名 西山キミエ 行年 百四歳